

Feedback Master

USER'S GUIDE

エルアールバッグスの製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。Feedback Masterはアコースティックサウンドをライブで使用の際に一番問題になるのが、フィードバックです。このFeedback Masterは2種類のフィードバックポイントを調整することが出来、限りなく狭い周波数範囲を深くカットすることによりフィードバックを抑えます。この事による音の変化は現れないのでギターそのままの音を忠実にアウトプットします。

CONTROL



1. Null 1

非常に狭く深いレンジで変化するフィルターです。一番左側で0Hz、時計周りで最大が320Hzです。フィードバックがあった場合に少しずつ右側に回します。ポイントが合ったところでフィードバックはビタッと止まります。

2. Null 2

上記1と全く同じです。Null 1で設定した所以外にフィードバックがあった時にNull 1と同様に使用します。

3. Volume

最終音量調整のボリュームです。

4. Output

通常のモノラルジャック用のアウトプットです。

5. Invert

このプッシュ/プル・スイッチは信号の位相を反転させます。押した状態で位相反転です。ライブ時にPAスピーカーの位相と合わない時に出る低音域のフィードバックがあった時に押すとかなり軽減されます。

6. Battery LED

Inputジャックにケーブルがさされていると常時LEDが点灯します。暗めになった時はバッテリーを交換してください。アルカリ電池で約250時間持ちます。

7. Gain Control

最適な入力感度を調整する為のゲイン・ボリュームです。さらに詳しくは後述の『GAINとは?』をご参照下さい。

8. Output

アンプやP. A. へ出力のアウトプットです。

9. Battery Compartment

本体裏側の大きなネジを外し、本体をスライドしバッテリーを交換します。

FEEDBACK MASTERを使用する

どのようにフィードバックマスターを使うのか?

パッシブ、アクティブ型のどのような（ピエゾやマグネチックPU）ピックアップでもフィードバックマスターを使用することができます。フィードバックマスターはライブ時に問題となるあらゆるフィードバックを解消するだけでなく、ピエゾやマグネチック・ピックアップのプリアンプとして使用することができます。他のエルアールバッグス製のプリアンプと同様Class A FET入力となっており非常にノイズが少なく忠実な出力が可能です。ベルトクリップで身近なベルトにセットするだけでなく、マイクスタンドに取り付けて使用する金具も付いています。

マイクスタンドにフィードバックマスターをセットする。

出荷時はベルトクリップの金具が付いています。マイクスタンドにセットするにはベルトクリップの小さいネジを外し付属のマイクスタンド用のアダプターを取り付けます。ネジは小さいので余り絞めすぎないようにしてください。右の図を参考にしてください。

GAIN『ゲイン』って何?

ゲインはボリュームではありません。入力信号を正常に使用できるレベルに上げる為のものです。フィードバックマスターは、パッシブやアクティブタイプのピックアップ、また色々なメーカーのピックアップシステムに対応し、このゲインは適正な入力信号を設定する時に使用します。

GAIN『ゲイン』を使って調整する

ここでゲインをどのように調整するかの説明をします。最初につなぐギターアンプやP. A. がクリーンな音が出るセットアップになっているか確認してください。ギターをフィードバックマスターにつなぎ、コードなどを強めに弾きながら徐々にゲインを上げていきます。ひずんだ音になったら、クリーンなサウンドになるまで少しづつもとめます。この位置が最適なポジションです。



一度設定したらギターアンプやP. A. が変わっても再調整する必要はありませんが、使用するギターが変わると再設定する必要があります。

FEEDBACK 『フィードバック』って何？

フィードバックはスピーカーのボリュームがある程度上がった時に弾いているギターと共鳴して出るサウンドです。一度フィードバックが始まるとその音量はさらに上がってきます。

一般的にギターにはいくつかの共鳴するポイントがあります。大別して下記の3種類です。

1. ギター本体ボディ内の共鳴

ほとんどの場合、125~150Hz → NULL 1を使用。一番左が0Hzで、回しながら合ったポイントでフィードバックは止まります。

2. ギターの表甲の共鳴

ほとんどの場合、19~240Hz → NULL 2を使用。一番左が0Hzで、回しながら合ったポイントでフィードバックは止まります。

3. 部屋の空間又はスピーカーとの関係で起こる

ほとんどの場合、PAスピーカーの80~120Hzで発生します。→ Phase Invert (位相切替) の赤いスイッチを押します。

上記の3つの問題以外はまずないと言って良いでしょう。

PHASE 『フェイズ』って何？

ギターの信号音とスピーカーの信号音はお互いの距離や向きによってそれぞれの信号が増幅されたり、バランスが取れたりします。特にライブ時にフィードバックが起きた時にスピーカーから離れたり向きを変えることで回避できたことがあると思います。(図1)はフィードバックが起こる場合です。スピーカーとギターの位相が合っていない為、(図2)のようにお互いの波形が増幅されフィードバックとなります。これに反して、(図3)はスピーカーとギターの位相が逆になっており(図4)のように位相がうち消されフィードバックは起こりません。

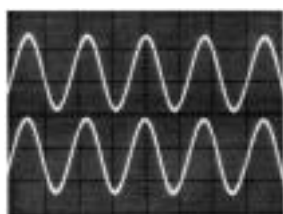


図1

→

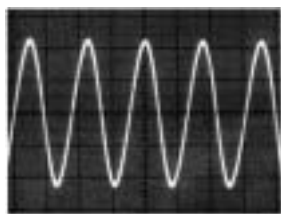


図2

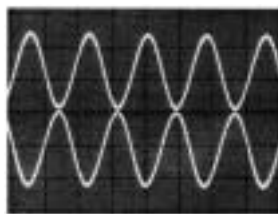


図3

→

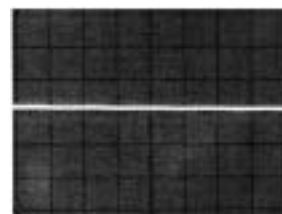


図4

フィードバックを克服する！

フィードバックが起こる場合は下記の3種類です。

1. 部屋の空間又はスピーカーとの関係で起こる (80~120Hz)
2. ギターボディ内の共鳴 (130~160Hz)
3. ギターの表甲の共鳴 (190~240Hz)

まず最初に起こり得るフィードバックは1でPhase Invert (位相切替) の赤いスイッチを使用します。さらに音量をやや上げ次のフィードバック (可能性的には2) が聞こえてきたら NULL 1 のつまみを少しずつ時計回りに回しフィードバックが消えるポジションを探します。さらに別のフィードバックがあるとすると上記の3です。この場合、NULL 2 のつまみを使い同様にフィードバックが消えるポジションを探します。しかしながら、フィードバックの可能性は一つ (可能性は少ないですが) 残ります。ライブでギターを使用している内にギターの温度が上がりフィードバックに反応するポイントがずれることです。このことを見込んであらかじめ音量設定やステージでの立ち位置を考慮することをオ

< Feedback Mster Specifications >

▲Battery Type : 1 x 9V ▲Current Consumpyion : 2mA ▲Battery Life : 250+ Hours *alkaline ▲Signal to Noise : -92dB, 20Hz~20kHz ▲Output Stage : Pure Class A ▲Null 1: Off ~ 320Hz Sweepable ▲Null 2: Off ~ 320Hz Sweepable ▲Gain: +3dB to +24dB ▲Input Impedance: 10 Megaohms ▲Output Impedance : 800 Ohm

L. R. BAGGS製品に関しては最寄りのお店にお問合せになるが、ホームページ www.jes1988.comをご参考にして下さい。

L. R. BAGGS日本総代理店 : **J.E.S. International, Inc.** 470-0162 愛知県愛知郡東郷町春木字三ツ池393 TEL: 0561-38-9845, mail:web@jes1988.com